

誰もが自分らしく
生きられる愛媛に



戦争にNO! 原発は廃炉!

無所属・市民派

たけい

武井たか子

武井たか子を支える会

〒791-8025 松山市衣山2-4-47 早瀬ビル2F

TEL 089-924-2485

公式ホームページ <http://home.e-catv.ne.jp/ikiiki/>

e-mail: ikiiki@cnc.e-catv.ne.jp



私たちも応援します



● ながえ孝子

参議院議員

武井たか子さんと私は、同じ歳の同じ『たかこ』です。共に「頑張り屋」です!と言いたいところですが、武井さんになかなないなあと思うのは、真摯に市民一人一人の悩みや声に向き合って、丁寧な議員活動を20年!続けている姿勢・実績です。

これからの愛媛の課題「コロナとどう共生していくか」「団塊の世代の皆さんの介護をどう支えるか」など考えると、医療従事者の経験から介護・福祉政策にも精通している武井さんは無くてはならない議員です。



● 福島みずほ

社会民主党党首・参議院議員

武井たか子さんは20年来の親友です。温かくて、話しやすく、フットワーク軽く、みんなのためにがんばる素敵な人です。大好きです。ジェンダー平等の実現をめざすフェミニスト議員連盟で長く一緒に活動し、女性議員を増やそう、政治を変えようとやってきました。頼もしい人です。働く人、生活者のために、教育や福祉、子育て、脱原発、環境問題、給食など多岐なテーマで奮闘してきました。愛媛県議会に武井たか子さんが何としても必要です。

● 山本 太郎

れいわ新選組代表・参議院議員



武井たか子さんを応援します。あなたが困っている、と聞けば動く。あなたが困るかも、と思えば先回りして動く。あなたのために、愛媛のために動く。それが武井たか子さん。応援するしかない!

〈プロフィール〉

1960年 宇和島市津島町に生まれる。

1979年 県立宇和島南高等学校卒業

1982年 松山赤十字看護専門学校卒業

松山赤十字病院、訪問看護ステーション愛媛で看護に従事する。

愛媛有機農産生協理事、議会に女性をおくる会代表として活動する。

2002年～2017年 松山市議会議員(4期15年)

2017年から愛媛県議会議員(ネットワーク市民の窓)

夫と保護猫たちと暮らす。

数字で見る愛媛

人口は?

130万5,543人(2022年11月)

→78万3,547人へ減少

(2060年の人口推定)

財政規模は?

● 一般会計歳出

7,794億1,784万円

● 一般会計収入

7,924億4,853万円

(2021年度決算)

借金はいくら?

9,818億7,456万円

(内、臨時財政対策債4,213億円

土木債3,909億円)

県民1人当たり75万円

(2021年度決算)

要チェック!

予算が膨れ上がる公共事業

● JR松山駅付近

連続立体交差事業

386億円→580億円

1.5倍

● 山鳥坂ダム建設事業

850億円→約1,320億円

1.5倍

ジェンダー平等の実現を

女性登用を促進し、ジェンダーの主流化（あらゆる政策にジェンダーの視点を）に取り組みました。パートナーシップ制度の導入も！

女性県議 4人 / 45人 (8.8%)

都道府県版ジェンダーギャップ指数
47都道府県中 **39位** (2022年)

有機農業（オーガニック）を広げて

長年、有機農産物を中心とした生協で培った経験をいかし、有機農業を推進しています。有機農業転換支援事業を充実させました。

人間と動物の共生社会を目指して

地域猫モデル事業、市町への猫の不妊去勢手術の補助金導入、動物愛護センターに譲渡施設を作ることができました。

犬猫の殺処分 1,281頭

【犬 447頭・猫 834頭】

(2020年度) 47都道府県中 **ワースト2位**

誰もが働き続けられる環境整備を

愛媛県の障がい者雇用を促進、女性、ニート、就職氷河期世代の人材育成、就労支援の充実を進めました。



イラスト：藤井玲子

DV、子ども虐待 セクハラ、性暴力は許さない

性暴力被害者支援センター（ひめここ）の広報や研修などを充実させました。セクハラチェックリストや教員のわいせつ行為に特化したチェックリストを導入しました。

伊方原発は廃炉！ 持続可能なエネルギーの地産地消を推進

厄介な核のごみの子や孫に残すわけにはいかない。だから、原発は止めるしかないと声を上げ続けています。

原発の安全性に不安・やや不安
80.8% (愛媛新聞世論調査2022.3.11)

石炭火力にNO！ 温暖化対策待ったなし

省エネの促進、公共施設への再エネ導入、住宅の断熱化、電気自動車の導入など、遅れている愛媛県の温暖化対策を促進させています。

公文書館で愛媛の知的財産を守る

民主主義の根幹を担う公文書館の設置を求めています。2022年から検討が始まりました。

公文書館がない47都道府県中
5県の一つ

変だなあ

おかしいなあ

と思うこと、声を上げたら変わります。

武井たか子は、ネットワーク市民の窓という一人会派です。議会の中では少数派ですが、全国の女性議員や県内の議員とネットワークし、情報を力に活動しています。2期5年、一人ひとりの小さな声や声なき声に耳を傾け、議会に届け、県政に反映させてきました。脱原発、ジェンダー平等、シングルマザーの支援、動物愛護、気候危機への対応など、仲間と共に行動し、実態を踏まえて政策提案しています。実現したこと、なかなか実現しないこともあります。私のモットーは「あきらめない」こと。その原動力は「誰もが自分らしく生きられる社会」であってほしいとの思いです。



新型コロナウイルス感染症へのきめ細かな対応

- ★コロナ情報を共有するために「政治カフェ」を4回開催
- ★『コロナ対策パンフ』を独自に作成・配布
- ★女性の自殺やDVなどが増えていることから相談体制の強化を求め、実現
- ★コロナの影響を受けている女性の実態調査を実施・公表
- ★シングルマザー支援団体の「コロナ禍で困窮するひとり親家庭への支援」の要請行動に同行

大変喜ばれました。

2020年松山市では児童扶養手当受給世帯への一律5万円給付金が実現。

- ★「生理の貧困」問題で、県内の10自治体21名の女性議員とともに、生理用品を学校や公共施設に置くよう要望

とべ残土処分場建設、一旦ストップ

2019年、川登地域立野に残土処分場を建設する申請が県に出されたことに対し、砥部町民の方々から、「ダンプの往来が増え、粉塵や振動による生活環境への影響や頻発する豪雨による土砂災害への不安もある」との声が届きました。予定地の手前の地域にはすでに残土処分場があり、さらに負担が大きくなる懸念されました。

- ★「残土処分場を考えるとべの会」へ参加
- ★県や町への要請行動、署名活動を積極的に行う。
- ★2020年12月、町内2,869名を含む5,034筆の署名を知事あてに提出

業者は申請を一旦取り下げました。



山鳥坂ダムに頼らない治水対策を

- ★西日本豪雨災害を機に、河道掘削や堤防整備、森林整備など環境重視で命を守る治水対策について提案しました。
- ★2018年、嘉田由紀子参議院議員（前滋賀県知事）と今本博健京都大学名誉教授を招いて、講演会「ダムに頼らない流域治水」を開催
- ★2019年、榊原正幸愛媛大学教授の案内で現地の地質についての学習会を開催
- ★2022年、小松正幸愛媛大学元学長による「山鳥坂ダムの地質学的問題」の学習会を開催

今、流域治水法が成立し、巨額な費用と長期の工事期間を要するダム頼みの治水対策から「流域治水」へと転換を図る過渡期にあります。

巨額な税金を使う山鳥坂ダムは見直すべきと声を上げ続けます。



いっしょに声を上げ、変えていきましょう。

セクハラ・パワハラ対策を

女性議員を増やすために環境を整備することは、先に議員となった者の役割だと思っています。

2021年6月10日、改正候補者男女均等法が成立し、セクハラ・マタハラの防止等の義務化が加わり、一歩前進しました。

- ★松山市議会議員時代、政治倫理要綱にセクハラ・パワハラの禁止規定を盛り込むために取り組んだことが、2021年5月号『地方議会人』で紹介されました。

その当時、東京都議会でセクハラヤジが問題となったことを受けて、私の所属する全国フェミニスト議員連盟が実施したセクハラアンケート報告を配布して、議会で女性が活躍できる環境として、セクシャルハラスメントの防止を訴えました。



市駅前フラワーデモ

松山市議会が、ちょっとだけ早く取り組んでいたことが評価されたのです。

「愛媛県まじめ会議動画」の配信中止!

2019年の夏ごろ、彼氏のいない独身女性が全国一多い、介護・看護にかかる時間が全国一長い、を「愛媛県のまじめ」につなげる動画が空港や街中で流れ、この内容に違和感があるという県民の声が届き、議会で取り上げました。これは、愛媛県のプロモーション戦略「まじめえひめ」プロジェクトという企画で、動画の根拠となるデータは信ぴょう性に欠け、出典元も示さず、行政として不適切な使用方法であることも明らかとなりました。

- ★『緊急集会「まじめえひめ動画」異議あり!』を開催
- ★県民の声をまとめて「愛媛県まじめ会議動画」の配信中止を求める緊急決議を提出
- ★県内の自治体議員6名が要望書を提出
- ★講演会「『まじめ会議動画』を多様な視点から検証するー『まじめえひめ』のデータをどう読み解くか?ー」を開催

この結果、動画配信は中止、担当のプロモーション戦略室をわずか2年で閉じ、デジタル戦略室に移行、「まじめえひめプロジェクト」は広報広聴課に移るとい迷走ぶりです。2020年度包括外部監査では、この事業を様々な角度から検証し、継続の可否も含めた検討が望ましいとの意見が出されています。



全国的に過熱化しているプロモーション戦略、税金の無駄遣いにならないよう、引き続きチェック!

動画の問題性が東京新聞の記事となったことに端を発し、NHK・全国の情報番組などで取り上げられました。私も何度も取材を受けました。『東洋経済』では、「日々悩む当事者を逆なでするイジリ」とし、介護や婚活をまじめに頑張っている人を揶揄するような自虐まじりであり、真剣に悩んでいる人ほど、「バカにされた」と感じやすい。また、介護や恋愛などセンシティブなものを行政が取り上げるデリカシーのなさが指摘されました。

オール与党の県議会に風穴を 市民 とともに開かれた議会を目指して